海外日誌（八）

在米山本一清

四月一日（日）

朝七時といふ早い時、バンビー夫人が吾々の室を叩いて「シカゴから御婦人連れの御友達が見えました。昨夜、この村に着かれたのだそうですが、餘り遲かつたので、只今訪れて來られました。階下の室に待つてゐられます」とのこと。床の中で今眼が醒めたばかりの時なのだが、とにかく起きればなるまいと、大急ぎで顔を洗ふやら、着物を着るやら。「ハテ、豫告もせずに訪れて來るとは、誰だらう？」と考へながら、狼狽すること夥だしく、英子の方が少し早く身ごしらへが出來たので、遽遽く、階段を降りて、そして、胸をおどらせながら、戸を開けて、室へ顔を出せば、コレは〳〵!! 大きく作つた男女の人形が二つ、椅子にもたれて人待ち顔の風情、紳士にはバンビー教授の外套と帽子とを着せ、淑女にはシモヌ嬢のコートを着せて、顔には一通りの目鼻が畫いてある。英子は暫くポンヤリ。別室では子供達の忍び笑ひの聲。——なるほど今日は四月フール（エプリル）の日であるのだ!!

招かれて、朝食にはリー氏方へ行く。食後、「人形來客」の一節を話してきかせて、又一笑ひ。——十時半から連れ立つて教會へ行く。今日は復活祭日で、禮拜に集つた人々の數は平常の倍もある。日曜學校の方でも、特別の禮式があり、小供達は皆卵子を貰つて歸つて行く。

午後一時のディンナーにはミス・ランニングも來て食卓を共にする。食後は暫くひるね。

夜曇り。

四月二日（月）

日食觀測が近づくので、天文臺内に於いて、それ〴〵の準備が忙しそう。フロスト臺長とパーク教授とは暇があれば首を集めて何くれと相談してゐる。今日からリー氏は天文臺の前庭に太陽鏡を持ち出し、焦點距離六十呎のレンズを並べて、時計仕掛の調節をやつてゐる。

四月三日（火）

今日は村の役人達の選擧日。我がウイリアムス・ベーは四五年前までは隣村フオンタナ村の一部であつたのだが、近年獨立して自治團體となり、其の初代の村長としては、天文臺のバレット教授が選ばれ、助役にはリー氏が當つて今日に及んだ。ところが今度改選期になつて、ガラージ（自働車運轉業）の主人ヴンゼルザー氏がバレット氏を向ふにまはして反對派の候補に打つて出たといふわけ。數日前から演說會だの何だのと言つて村は可なり騒いでゐた。學校の生徒なども撰擧の稽古をしてゐたそうな。ヴンゼルザー氏立候補の理由は、バレット氏の水道改修政策によつて地方稅の增徵せられるのを反對するのであるといふ。——天文臺の有權者たちは勿論皆バレット派で、我家のバンビー教授も夫人も午前中に投票に行つた。又、村でも物のわかつた連中は味方だといふ見込みであつたが、午後になつて反對派が御手のものの自動車で有權者の駈り出しをやつたため、形勢は樂觀を許さなくなつた。

午後八時、自分は天文臺の自室で讀書してゐると、ストルフェ君が駈け込んで來て、「ミスター・バレットは落選した！　僅か一票の差で」といふ。リー氏も落選で天文臺派は敗北した。——あとで開けば、天文臺のサリヴン氏は昨夜觀測のため、今日は朝から終日れてゐて、選擧には棄權したとのこと。殘念々々。

新聞により、在パリの日本の三殿下御遭難の報を知つた。

四月四日（水）

マウント・ホリヨク女子大學の天文臺長ミス・ヤング氏昨夜來着、今日より三ケ月ほど當所で光度研究をせられる。宿はリー氏宅、食事はミス・カルヴート方、研究室はパーク教授室。

夜、パーク氏と共に二十四吋で駒者座V星撮影。

英子はカルヴート方で裁縫會に出席。十時同道歸宅。

四月五日（木）

小遊星エトラの位置を計算して推定表を作る。

夜はプルース鏡で小遊星を多く撮影す。

デアボーン天文臺長フオクス氏から招待狀が來た。近い中に往訪することとする。

四月六日(金)
英子はコルドバ星表とケープ星表の變光星の計算をやる。
自分は終日、昨夜の寫眞の現像、檢査、計算。
ワシバーン天文臺長ステビンスより「遊びに來い」といふ手紙。來月行く筈の返事を出す。

四月七日(土)
變光星の統計研究。
午後、英子はレーキ・ゼネバ町へ買ひ物に行く。

四月八日(日)
午前中、教會行き。
午後、パーク教授訪問。それからリー氏方を訪ひ、同夫人の案内で三人が湖岸を散歩する。水際の草に少しばかり春らしい氣分が見えて來た。
夜、ブルースで觀測。

四月九日(月)
豫て知らせのあつた通り、午前十一時、シカゴから田崎氏來訪。英子と二人で停車場まで迎えに行つたが、珍らしい程の雪と風とで氣の毒であつた。——ともかく、天文臺へ案内して、取り敢へず、研究室や十二吋塔などを見せた。それから正午には共にバンビー氏宅に歸つて食事。後、又、天文臺へ歸つて二十四吋、四十吋の順に望遠鏡を見せた。其後、圖書室に休息、久しぶりにいろ〳〵と日本の事など話す。
午後四時、同氏はシカゴへ歸られるので、又、停車場へ見送る。
夜、バンビー教授及びシモヌ孃と四人で村の小學校に開かれる父兄會の講演會に行き、ミルチーキー博物館のスミス氏の植物講話をきく。
夏服が出來て來た。

四月十日(火)
研究室で計算。
夜曇り。明日から旅行するので、クリーヴランドの案内を調べる。

四月十一日(水)
骨休めを兼ね、クリーヴランドに開かれる宗教々育大會に出席のため、又、同地の天文教育視察のため、今朝七時半出發。今んどは獨り旅。
シカゴ北西停車場着九時半、同十時半、ラサル停車場からニヨーク・セントラル線の急行に乘り込む。トリードで東部標準時の域内に入る。
午後七時、豫定の如く、クリーヴランド聯合停車場に着いて、車を下りたが、生憎、雪混りの雨降りで北風が寒い。自働車を雇ふて、ホテル・クリーヴランドに入る。こゝは市街の中央廣場に望んだ一角を占めて、誠に立派なホテルである。
宗教々育大會は當ホテルの夜會場で、今日の午後八時から始まる。新聞の前景氣では來會人員一千人とあるので、如何に大きなホテルも今日は少しは混雑するだらうと思つてゐた。しかるに、來て見て、「大會は何の室であるのか」とボーイに聞いたところが、「會合は幾つも開かれてゐますが、お尋ねの會は何會ですか」と問ひ返されて、ギヤフンと參つた。——會は會長ソーレス氏の演說「新時代の宗教々育」、ついでハウ牧師の說教「今日の人心」。

四月十二日(木)
今日は、一日中、正直に宗教々育の諸會合に出席するときめる。
先づ朝九時からGAコー教授の座長で協議會、題は「宗教々育の效果の發見」、つゞいて「其の結果發見の改良如何」。午後は會長ソーレス教授座長となり、又協議會で、題は「人間性に關する諸問題」。
午後四時頃、一先づ會が終つたので、自分は獨りで附近の街路を散歩に出かけ、公衆廣場を一回巡つた後、プロスペクト街を西へ行つて、ヴアイアダクト(大鉤橋)の壯觀を見、歸りには鐵工場の多い邊りを通つた。夕食後、イウクリド街を散歩し、それから湖岸に出て、波の上に美しく沒して行く太陽を見る。
夜八時から、大會場でOデビス師の說教「宗教々育は教會より何を望むか」、次でJMクートラー教授の講演「理學時代の宗教教育」。

四月十三日(金)
朝八時過、宿を出て、ケース應用理學校へ行かうとしたが、ウエ

ド公園行きの電車に乘つて、方角を誤り、大まごつき。やつと、人に聞きく〳〵、イウクリド街に出で又電車に乘り、十時半頃に遂に大學廣場に到着。直ちに目ざすケース學校の物理學教室を訪ふた。しかるにフロスト氏からの紹介狀を持つて來たのに有名なDCミラー教授はワシントンへ講演に行つたとて不在。マーテンといふ若い講師が極めて親切に各室を案内してくれた。かの有名なマイケルソン・モーレーの實驗したといふ光波干渉器も見た。午後は天文學助教授ナツサウに自働車で案内して貰つて、市外れのアーナー・スエジー氏紀念天文臺を參觀した。新しく、十吋程度の器械であるが、美ましいぐらゐ立派に調つてゐた。

歸途、カーネギー街にアーナー・スエジー會社を訪問。しかし生憎、又、アーナー氏もスエジー氏も不在なので、主事シーリー氏に案内して貰つて工場内を參觀、今製作中のエスレイアン大學の六十吋望遠鏡、それから南米コルドバ天文臺行きの大反射望遠鏡の部分を見た。

夕方、宿に歸着、八時から大會に出で、ジョンス師の「宗教上に於ける家庭の權利如何」、ついでアイグル教授の「宗教々育上より見たる公立學校の問題」をきく。

四月十四日(土)

朝八時半、宿を引き上げ、南西電車鐵道に乘つて、午前十一時頃、オベリン町に着。大學の事務所で宿をきいて、遠藤君の居るといふカウンシル・ホールを訪問。正午、同君、宮川君、水向君等と午食を共にしそれからホールに歸つて、雜談す。日本人學生諸君多く集る。午後三時から岩谷、本出兩君の案内で、大學町の内外を散歩し、同志社創立者デビス博士の墓にも參拜。四時からは福原君を加へて、四人連れで、雨風を冒し、イリリア町の日本人料理店へ食事をしに行く。午後八時、又、オベリンに歸り、丁度、大學大會堂で開かれてゐる活動寫眞オリヴア・トウイストを見た。夜はカウンシル・ホールの福原君の室で眠る。

四月十五日(日)

朝九時半から宮川湯淺兩君に連れられて、大學内の日曜學校を參觀、親切なるロビンヤア教授の案内を受く。十時半からフインニー會堂で壯嚴な禮拜式に參列、湯淺君は唱歌隊に加はる。禮拜式後、早々、荷物をまとめ、多くの諸君に別れ、電車でイリリアに行く。車中、支那人學生ヤン君と大に談ず(日本語と英語混用)。

イリリア停車場で午後一時半の半急列車に乘りコーチで西行。七時半シカゴのラサル停車場着、直ちに日本人青年會に入り宿る。すると、圖らずも昨日から、京都大學醫學部の眞下助教授が當地に來てゐるとのこと、大喜び、早速、宿のブラクストーンに電話をかけると、あちらも喜んで、間もなく自働車で青年會へかけつけて來られた。一時間ばかり話す。明朝再會を約して夜半別る。

四月十六日(月)

朝九時、ブラクストーン・ホテルに眞下君を訪れ、同行の人々と共に暫く市街を見物、午前十時頃、ディアボール街に北西大學醫學部を參觀した。それから同氏等はシカゴ大學へ行かれたが、自分だけは別れを告げ、一旦、青年會に歸り、荷物をまとめ、午後三時半、北西停車場からベーに歸る。

四月十七日(火)

午前中、研究室へ出たが、午後は疲れのため、ひるね。

四月十八日(水)

何だか、痛くて首がまはらない。それでも午後、研究室からの歸途、カンパスで子供達とボールを投げて遊ぶ。

夜は小遊星や北極の寫眞撮影。夜半頃、十二吋塔に上つて、ミス・ヤングが蟹座星團の光度測定をやつてゐられるのを見、暫く自分もそれを手傳ふ。

四月十九日(木)

南西の風、溫度七十度(華氏)といふ暖かさ。今まで着てゐた冬のシヤツなどを脫ぎかへて、心底から春の氣分になる。

午後三時五十五分と、五時二十分とにアルデバラン(牡牛のア星)の掩蔽がある。之れに關する推算結果が、かれて、ロシアのカルコフ天文臺から送られて來てゐた。今日は其の時刻に、バンヒー、ストルーフエ兩氏は四十吋へ、ミス・ヤングと自分とは十二吋へ行つて觀測。——結果、推算時刻より十六秒及び二十一秒速い。

夜、英子はミス・カルヴート氏で裁縫會。
日本銀行より電報爲替一〇四七・六〇弗來る。

四月二十日(金)

フロスト臺長は今朝出發、夫人と同伴で、ワシントン府へ國立理學院の年會に出席。
夕方、英子と湖岸を散歩し、有名なコンフエレンス・ポイントあたりを歩く。夜空曇り。午後八時より、宅の子供達と共に村の學校へ行つて、ハイスクール第三年級生の演劇「And Home Came Ted」を觀る。感心!!

四月二十一日(土)

午後二時過ぎ、英子はリー夫妻に連れられてデラヴン町へ行つた。ところが夕食時になつても歸らない。「途中で自働車に故障が起つたのぢやないでせうか」とバンビー夫人は心配して、リー氏の留守宅へ電話をかけたりしてゐられた。ところが十時頃になつて、一行三人、車塵を擧げて、堂々と歸つて來て、曰く「エルクホーン町へまはり、ステイル氏の御宅に御馳走になつてゐました」。

四月二十二日(日)

午前中、教會に禮拜。其の後、バレット夫人の望みにより、自分は日曜學校の上級女生徒に日本の宗教事情を話す。
午後、リー家を訪問。それからパーク氏夫妻と湖岸まで散歩。ついで、一同、カルバート方を訪問。
夜曇り。獨りで教會の集會へ出席し、南部アフリカから歸つて來た傳道者の土産話をきく。

四月二十三日(月)

午後二時、リー氏に連られてレーキ・ゼネバ町に行き、齒醫ヴィカースに齒の檢査をして貰ふ。五時歸宅。
夕食後、カンバスを散歩。

四月二十四日(火)

終日、研究室。

(一八)

四月二十五日(水)

早朝一時半起床、ブルース寫眞器で蝎、射手あたりの星座を撮影三時半に、もはや東天が白んで來て寫眞を續けられなくなつたには驚いた。高緯度の夏は天文家のために禍ひだ。

四月二十六日(木)

午後六時、ウイルソン山天文臺から歐洲スイーデンに歸國する途中のKルンドマルク氏が當地へ來るので、夕方、英子と共に、散歩かたゝ〳〵停車場へ迎へに行く。パーク、バンビー兩氏も來る。同氏夫妻は今日から二三日パーク氏の客となる。
夜八時、宅の子供達と共に學校へ活動寫眞を見に行つた。題は「Come on over」といふので、愛關の少女の戀を畫いた喜劇であつた。十時頃大滿足で歸つて來て、吾々二人は宅へは行かず、直ちに研究室に來て見ると、ストルーフエ君が面相變へてやつて來て、火事だ!皆燒けた!!といふ。それが例のロシア訛りで、聞き手が英子と來てゐるから、意味が通じない。「何です?」と言つて自分も出て來て見ると、ストルーフエ君曰く「バンビースルクの家が燒けて、臺所は丸燒け。烟りで〳〵始めは、ひどい事だつた。しかし、あなたの室は安全です」といふ。ソリヤ大變だ。大狼狽で馳け出して宅へ歸つて行く。……なるほど、例になく宅の室々の電燈は明々と點ぜられて、人が多數出入してゐる。裏口から飛んで臺所を覗くと、眞黒々と燒けた臺所の中は無茶苦茶に物がこはれてゐて、其の中で泥だらけになつた御主人バンビー教授とリー氏とが大聲で興奮してゐる。ミス・カルバート等を始め、婦人たちも澤山見舞に來てゐる。「まづ、臺所だけで消し止めたのは幸ひであつた」と皆言つてゐる。バンビー氏は自分等の歸つて來たのを顧みて、「やあ、此の通り、ひどいことでした。あなたの室が丁度此の上に當つてゐましたが、安全です!!」——火元は臺所の一隅に片づけてあつた掃除道具オイル・マットから自發的に